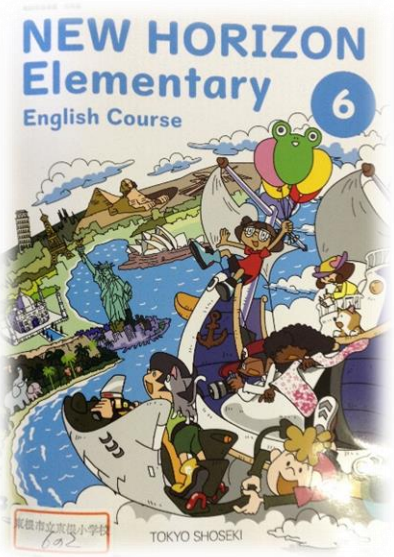
英語の授業が始まりました！



５月１８日（月）から待ちに待った授業が再開しました。今年度から「学習指導要領」と呼ばれる国が決める教育内容が新しくなり、小学校から順次実施されます。（中学校は来年度から）これまでと大きく変わったことは、新しく教科になった学習内容があることです。道徳（特別の教科道徳）と５・６年の英語（外国語科）です。３・４年生は外国語活動という名称で、教科扱いでなく領域扱いとなります。教科になると、教科書が配られ、評価（通知表の項目）が加わります。特別の教科道徳は２年前から教科となりました。５・６年の英語は週２回実施されます。

本校では、週２時間のうち、ALT の先生との授業が週１回行われています。以下は、６年生の授業風景です。This is me! という単元で、自分の名前や好きなこと、誕生日などを英語で伝えるようになることがねらいです。この日の授業は、世界の子ども達、７人の自己紹介を聞いて、誰がどんなことを言っていたかを聞き取る授業です。Hello. I'm Emily. I live in Japan with my family, too. But I'm from Singapore. I like dogs. I can speak English and Chinese. I study Japanese hard. But Japanese is difficult for me. My birthday is May 5th. My father is a baker. I want to be a baker, too. という自己紹介を聞いて、ALT のアナ先生の質問に答えていきます。さすがは６年生、今まで聞いたことのある英語やこれまでの学習を手がかりにして、どこの国から来たのか、好きなことは何か、誕生日はいつなのか、どんどん答えていきます。このように、小学校では「聞く」「話す」活動を中心として授業を進めていきます。

グローバル化がさらに進むこれからの時代、外国の人と一緒に仕事をしたり、活動をしたりする機会も増えてくるはずです。そのような時に、自分の伝えたいことや尋ねられたことに対して、簡単な英語を使って表現できるようになることを目指しています。

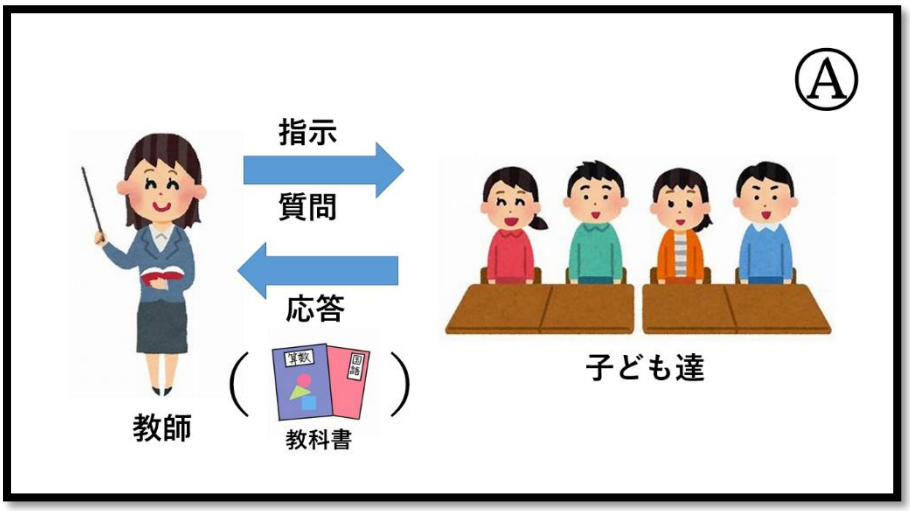
アクティブラーニングとは？

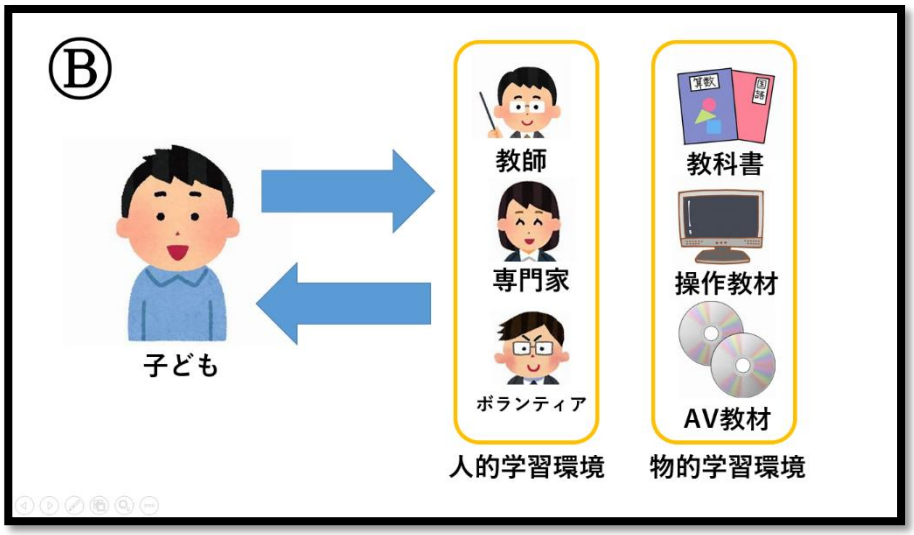
もう一つ、新学習指導要領の目指す「アクティブラーニング」とは「主体的、対話的で深い学習」とも呼ばれる学習スタイルで、子どもが能動的に学習に取り組む学習法のことです。

子ども同士が問題を話し合い、お互いに意見を交換しながら答えを導き出すため、それぞれの考え方を共有していきます。自分の考えを話すことにより理解を深め知識が洗練され、誤りがあった場合にも発見しやすく、問題解決能力や論理的思考の向上にもつながり

ます。個別に学習するよりも他者からの刺激を受けることで、学習意欲の向上や知識や考え方の幅も広がっていきます。

さらに、今の子ども達が大人になる時代は、グローバル化やIT産業の躍進などでさらに社会環境の激しい時代となり、知識もすぐに陳腐化すると言われています。単純に知識を増やすだけでなく、自ら学ぶ力を身に付けること、時代の変化に対応できる能力が必要となります。そこで、能動的・主体的に学習する態度を身に付ける必要があります。





これまでは左図のAのような、教師と子ども達が教科書を通して学ぶ学習スタイルが中心でしたが、これからは、子ども達が能動的・主体的に学ぶ図Bのような学習スタイルも取り入れた授業が行われるようになります。

つまり、子ども一人ひとりが自分の課題（自分が興味を持って調べたいことや、疑問に思って解決したいこと）を持ち、教科書だけでなく、地域の方々に聞いたり、その他の教材を使って調べたりしながら課題を解決していく学習です。さらに、自分一人で解決できないような場合は、前述したように、友達と考えを出し合い協働的に課題を解決していきます。しかし、コロナウイルス感染症対策として、しばらく対話型の授業できないことが残念です。

ソーシャルディスタンスを保ちながら

水場の前の立ち位置や、給食を食べる場所、後片付けは一方通行にするなど、密を避ける「新しい生活様式」を取り入れた学校生活が始まっています。